

新子書卷
其素假

句合



幻遊庵評

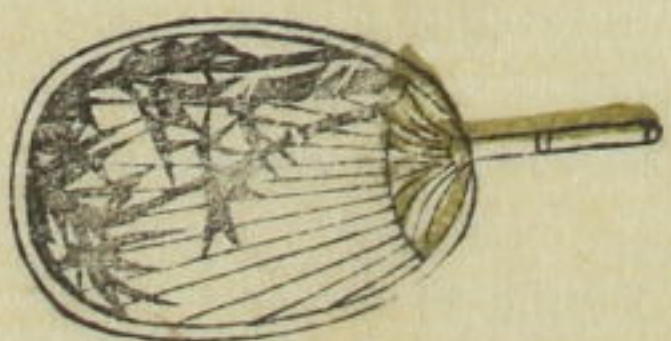
王松韻

谷
白
榮

東

松石堂之部

為貝二千餘章



此鳥の片々たるお宝は、是れサナ
 杯、箱なり名を附てあり。物たる
 所のむね降へこころ。音此言
 まるこのや。行きて音しん神音
 子子めいふめさる。此降と居
 常も終る床よりぬ身とおわり
 たる形あるのみを言ふことなき
 石板と云ふてのほろ日今くる

永年
如之
香矣

感此之部

靜山女
子金剛
今風
王
子
子
巴桑
桑
桑
桑
桑

有日无年

はるまのふゆをみて秋降る
いん佛のちるる月をみけるは

東野
胡

三
佛經
法華經

手匠部

このとて候て成しきやうし
 さりとて、夜明けの句也。部
 校通を以て、此より井戸や苔む
 うくこゝにていふ山々つらんこと
 其のちよきし、如かせん。おれら
 かたの月、海月の影を投じ
 やさしくは、波のうへに映る子
 りる海もや、みるまゝ、あめりけ
 なるもの、龍の固の雲、
 はなはた、晴れゆく、一、
 あけぬ、さき、さき、月、
 時、名、なきて、秋、
 つた、方、多、す

五全小書一形全如行財
五全小書一形全如行財

小まんとく
那のつるふ
年々
あつて
月々
あつて

款收

此乃

之字も亦如き
 撫之に
 小依れ

靜明
大乙
左二

不味之餅

靜以人
能不失子
以終強

世のうやむやなくおのる
 習ふ



江上草堂

福

幻世庵

五

辛巳四月朔

四十五

一病
 新降
 吟何
 靜之
 思の
 不意子
 言仙
 却成
 静友
 色石
 影を毛
 急有
 急靜
 急茶
 急仙
 附判
 五保堂